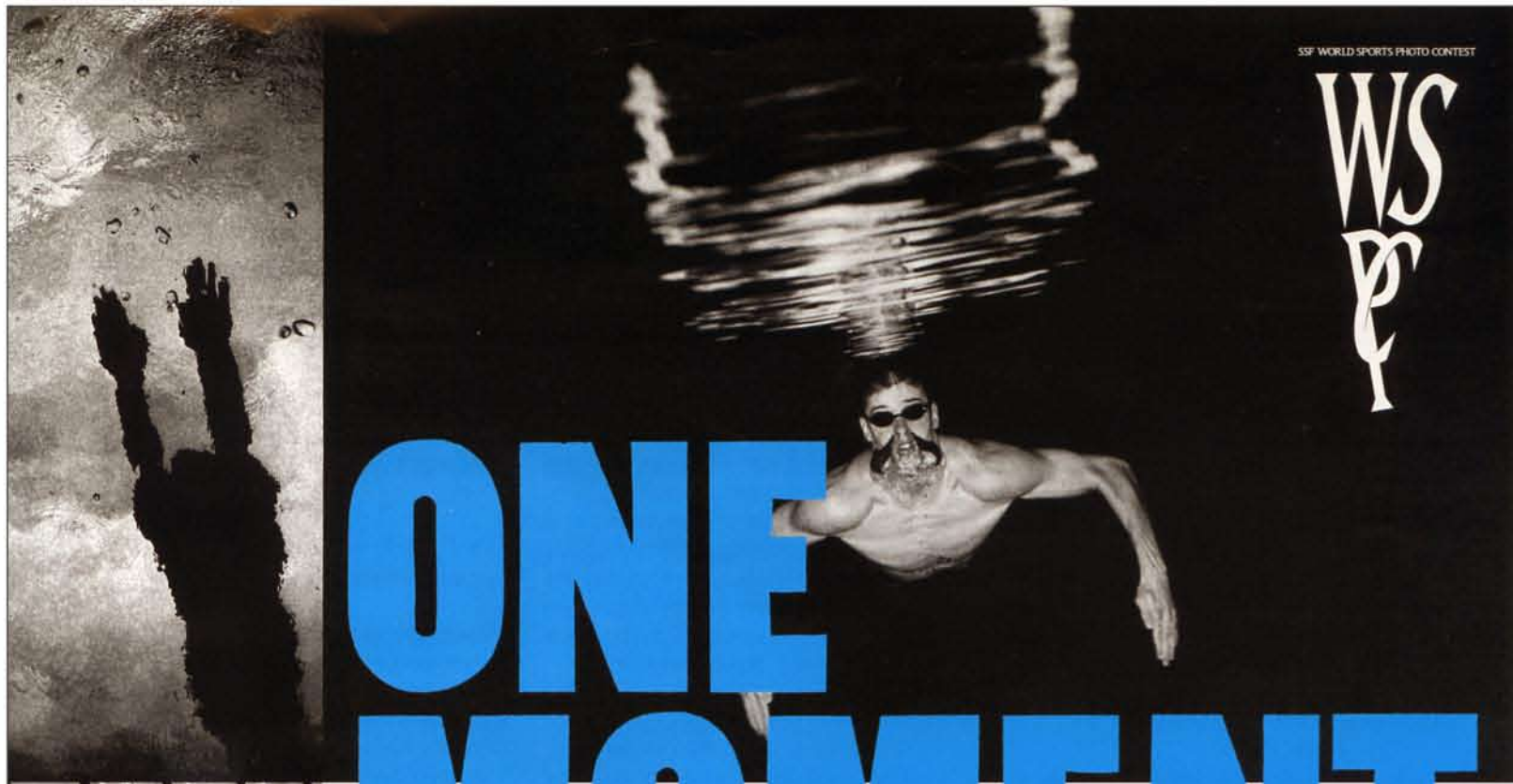




ONE MOMENT IN TIME

SSF世界スポーツフォトコンテスト2002写真展

日本初DVD写真展

【開催期間】 2002.12.20 FRI ~ 2003.1.13 MON
休館日：月曜日（祝日、1月6日を除く）

【会場】 東京都写真美術館 3階展示室（恵比寿ガーデンプレイス内）

【時間】 10:00~18:00（木・金曜日は20:00まで）

【入場料】 一般600円 大学生500円 小・中・高・65歳以上の方300円 幼児・身障者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※20名以上は団体割引あり 【主催】 SSF徳川スポーツ財団 【後援】 外務省、文部科学省、日本財団、国際オリンピック委員会（IOC）、国連教育科学文化機関（UNESCO）、国際トリム・フィットネス生涯スポーツ協議会（TAFISA）、アジア・スポーツ・フォー・オール協会（ASFAA）、（財）日本オリンピック委員会（JOC）、NPO法人日本ワールドゲームズ協会、（財）日本体育協会、（財）ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、（財）東京都歴史文化財団、東京都写真美術館、（財）日本ユニセフ協会 【協賛】 キヤノン株式会社、アディダス ジャパン株式会社、タリフジ、富士写真フイルム株式会社 問い合わせ「SSF世界スポーツフォトコンテスト事務局」 東京都港区虎ノ門1-15-16 TEL:03-3580-5854 FAX:03-3580-5968 <http://www.ssf.or.jp/> e-mail: wspc@ssf.or.jp

Canon

FOREVER SPORT

adidas

タリフジ

FUJIFILM

日本財団
The Nippon Foundation

every one
For Active Sporting Life

SSF

SAKAWA SPORTS FOUNDATION



SSF世界スポーツフォトコンテスト2002DVD写真展

“世界最高峰のスポーツフォトコンテスト” 厳選な審査の結果選ばれた秀作の数々。肉体の感動、緊張の瞬間など、まさにスポーツの瞬間を捉えた作品や、思わず笑みがこぼれるほのぼのとした作品まで、それぞれに驚きと感動がいっぱいです。子供から大人まで、たくさんの人に楽しんで頂ける日本初となるDVDスポーツ写真展です。1枚1枚の写真から表現される熱いメッセージや喜び・悲しみの感動を味わって下さい。

審査員総評

伊達公子（テニスプレイヤー）

それぞれ素晴らしい分野で活躍されていらっしゃる審査員の方々の中でスポーツ選手そして女性という立場を考え、私なりの視点で写真を見させていただきました。最終的に選ばれた入賞作品6点を見ていても非常にメッセージ性が強いと感じます。それぞれのスポーツの躍動感、緊張感あふれる瞬間、そしてスポーツに対する想い。

スポーツはその場所で自分で雰囲気を感じ、目で見ることが何よりも最大の魅力だと思います。でも自分では感じ取れない瞬間までもとらえることができるのが写真の魅力なのではないかと感じました。

スペシャル・フォトグラフ・アワードの一つは、とにかく子供の表情から感情が伝わってくる作品です。日本ではここ最近、スポーツの英才教育で小さい頃からひとつのスポーツで親の期待をいっぱい背負っている子供たちも少なくありません。

しかし、欧米ではスポーツに親しみ遊ぶときには遊び、さまざまなスポーツと触れ合っています。

大好きなレスリングを一生懸命練習して、休憩の合間にはお絵かきをして遊んでいるのがなんともユニークです。試合で負けてしまい悔しい気持ちを思いっきり出しているのがわかります。日本では運動会で順位をつけなくなったという話を聞くこともあります。でもこの写真からスポーツの原点を見ることができる作品ではないかと思えます。

選ばれた素晴らしい写真の数々を見てスポーツの素晴らしさ、そしてスポーツに対する想いをより一層深めていただければと思います。

西木正明（作家）

写真という表現手段は、器材の進歩もあって、万人にとってとても親しみやすいものになった。スポーツ写真も例外ではない。以前は高い技術と優秀な器材に恵まれた専門家でなければ生み出し得なかった遠くにある被写体や、高速で動く被写体を、アマチュアでも簡単に捉えることが

可能になった。

それ故に、人々の心に訴える作品をものごとくすることが難しくなったともいえる。例年、当コンテストの最終審査の対象となる作品は、それぞれに素晴らしいものばかりであるが、時としてそうした器材の進歩によりかき、いわゆるウケを狙った、見た目の派手な作品が多かったとはいえない。

その点今年度の最終候補作品は、いずれもスポーツ写真の原点に立ち帰り、人間の能力の素晴らしさ、スポーツを楽しむことの喜びを表現したものが多かったことは、審査員の末席にいる者として、我が意を得た思いだった。もうひとつのうれしいことは、ここ数年、強いメッセージ性を持つ秀作が多いということである。とりわけ今年度は、ゴールドプライズをはじめとする上位の作品の多くが組写真で、メッセージ性に富むものばかりであった。写真の持つ力を有効に生かして、頼もしく感じられた。

また、これも写真の原点である、光と影の微妙なアヤを捉えた美しい作品にも恵まれ、幸せな気分にあふれた。

井上進一郎

（スポーツ・グラフィック「ナンバー」局長）

受賞作の中では、スチュアート・フリードマン氏の「フットボール・ファン」に強く惹かれました。サッカーが生活の一部に溶け込んでいるイングランドの人々の姿が、シンプルな構図の中に実にみごとに映し出されています。じっと見ていると、彼らの日常までが滲み出てきそうです。絵画を思わせる背景も、工夫が凝らされ、新鮮です。

ゴールドプライズに輝くクレイグ・ゴードン氏の作品は、アングルから何からすべてが緻密に計算され、構成されていて、つけない隙を見せません。アディダス・アワード受賞の「クイーン・ウェーブ」も同様、スポーツを取り慣れたプロならではの、水準の高い作品だと思います。どちらも平均以上の達者な作品ですが、欲を言えば、驚きがありませんでした。

ここ数年、組み写真が賞を寡占する傾向にあります。組み写真でしか表し得ないテーマがあるのは事実ですが、数をたのむ嫌いがなくてもありません。一点で勝負する作

品も、もっと見てみたい、というのが正直な気持ちです。

とはいえ、受賞作のみさんのたゆまぬ努力には、心より敬意を表します。

リッチ・クラークソン

（元全米報道写真家協会会長）

これまでにSSF世界スポーツフォトコンテストに寄せられた素晴らしいスポーツ写真は、躍動美、スポーツの決定的瞬間を捉えるタイミング、撮影者の美意識の確かさという点において際立っていました。今回のコンテストにも様々な写真が寄せられ、入賞した作品はどれもユニークな切り口で見る者の心を捉えて離さないものばかりです。

ゴールドプライズは、水泳の場面で的確に表現した美しいフォトエッセイであり、それらの優美な写真の全てにはこのスポーツが持つ美しさにあふれています。これら6枚の写真は、一枚一枚似たものはありませんが、一つにまとまって、このスポーツの様々な要素を非常に簡潔な形で表現しています。

「スペシャル・フォトグラフ・アワード」は、大人のスポーツにチャレンジする若い子供たちの姿をとらえた一連の写真であり、これらの写真はすべて見る者の目を楽しませ、心を捉えてはならない魅力にあふれています。もう1つの「スペシャル・フォトグラフ・アワード」と「ベスト・スポーツ・プレス・フォトグラフ」も技術の確かさという点で抜き出ており、スポーツの美に着目しています。「SSFスペシャルアワード」は熱狂的なサッカーファンの様々な姿を捉えており、「SSFアワード」は競技スポーツを別の視点から表現し、そこには美しさや人間に対する興味があふれています。

全体として、2002年コンテストの入賞作品は、目の付け所が鋭く、ユニークな技が光り、私達や世界中の人々を虜にしているスポーツの世界に誇っています。やはり、スポーツは万国共通の言語であり、写真は、カルティエ・ブレッソン以来受け継がれている他に類を見ない鮮やかな記憶を残す手段です。

私はこのコンテストを、そしてSSFのこのコンテストによる功績を、畏れ、高く評価します。

SSF世界スポーツフォトコンテスト2002入賞者

Gold Prize

¥5,000,000
The Art of the Swimming Race
Mr. Craig Golding
Australia

Special Photograph Award

(Canon Award)
¥1,000,000
Kinder Garden Wrestling
Mr. Chris Curry
USA

Special Photograph Award

(adidas Japan Award)
¥1,000,000
Queen Wave
Mr. Donald Miralle
USA

Best Sports Press Photograph

(The Fuji Evening Award)
¥500,000
Golden Glow
Mr. Brett Costello
Australia

SSF Special Award

¥1,000,000
Football Fans
Mr. Stuart Freedman
England

SSF Award

¥1,000,000
煩惱
片平長義
日本

審査員

伊東順二（美術評論家）、井上進一郎（Number局長）、岡野俊一郎（IOC委員）、岸本健（スポーツ写真家）、伊達公子（テニスプレイヤー）、長友啓典（アートディレクター）、西木正明（作家）、リッチ・クラークソン（元全米報道写真家協会会長）、平澤哲男（キヤノン株式会社 コーポレートコミュニケーションセンター所長）、クルト・ベズ（アディダスジャパン株式会社 代表取締役）、金子隆一（東京都写真美術館）、武久成之（タリフジ）

入場料：一般600円 大学生500円
小・中・高生・65歳以上の方 300円
幼児、身障者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。20名以上は団体割引あり。

お問い合わせ：SSF世界スポーツフォトコンテスト事務局
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16
TEL:03-3580-5854 FAX:03-3580-5968
<http://www.ssf.or.jp> e-mail: wspc@ssf.or.jp

今後のスケジュール
北海道東川文化ギャラリー／兵庫県但馬ドーム／その他
※ DVD写真展開催地募集中！

キヤノン
パワープロジェクター
圧倒的な明るさ
3,700ANSI lm
パワーユースモデル
LV-7545
canon.jp/projector
機材協力：キヤノン株式会社